２０２３年１０月２９日（聖霊降臨後第２２主日、特定２５、A年）
牧師メッセージ
「愛」
（マタイによる福音書22:34-46）

司祭ヨセフ太田信三

人間の愛には限界があります。しかし、神の愛に限界はありません。

創世記で神は人間を造り、「極めて良い」と祝福しました。そして神はその人間をどこまでも憐れみ、愛し抜かれます。主イエスの十字架の出来事によってこそ、その愛は示されました。ご自分の独り子、御子の命をも差し出すほどの愛。その愛が、わたしたち一人ひとりに向けられています。その愛をいただくなら、枯れることの無い愛がわたしたちに注がれます。そしてその愛はわたしたちを内側から溢れ出し、隣の誰かへと伝わります。そこに、枯れることのない隣人愛が実現します。どんなにひどい生き方をしてきた人も、どんなに人を愛することができないと思っている人も、その「あなた」を通してこそ、神の愛が溢れ、愛し合う人間関係が生まれるのです。

だからこそ、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」ということを、主イエスは「これが最も大事な第一の掟である。」と言われました。まず神との交わりがあり、その神との愛の交わりにおいて枯れることのない愛をいただくからこそ、「隣人を自分のように愛しなさい」という、愛の実践、愛に生きることができるからです。

主イエスは神への愛を「最も重要な第一の掟」と言いました。そして「第二も、これと同じように重要である。」と言って、隣人愛を挙げました。ここでの「第二」は「重要さ」の序列を意味するのではありません。ただ順番を挙げているだけです。神への愛と隣人愛は重要さにおいて同列であり、両者は表裏一体です。しかし、人間から出る愛には限界があるから、神からの愛に気づくことが、すべての始まりなのです。

クリスチャンは、十字架の縦と横の交わるところ、中心を歩む存在です。縦は「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」ということに表される、神との交わりです。そして、横は「隣人を自分のように愛しなさい」という隣人との交わりです。そしてその交わる中心、真ん中にあるのが「愛」です。どんなに神を信じている、と言っても、そこに愛が無ければ意味がありません。どんなに隣人を大切にしている、と言っても、そこに愛がなければその関わりは虚しいものです。また、縦だけの関係だけでも、横だけの関係だけでも、人は生きていくことはできません。

主イエスは、山上の説教で、「わたしは律法と預言者を完成するために来た」と語りました。律法と預言者とは、聖書を表す言葉です。聖書の完成、神の救いのみ業の完成は、神への愛と隣人愛に掛かっていると主イエスは教えています。神を愛し隣人を愛する、十字架の真ん中を歩み続けられますように。